

健康通信

多発性のう胞腎 (ADPKD) について



腎臓内科部長医師

浦濱 善倫

多発性のう胞腎は、腎臓に「のう胞」という水のたまった袋がたくさんできることにより腎臓が大きいくふうらんでいき腎臓の働きが低下する遺伝性の病気です。遺伝性の病気の中では頻度が高く1000人に1人の確率で患者さんがいると言われてます。腎臓が働かなくなり腎不全となって新たに透析をはじめの原因としては糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、腎硬化症に

次いで4番目に多い病気です。平成27年1月より医療費助成対象疾患となりました。両親のどちらかが遺伝子に変異をもっていると子供が2分の1が発症します。

どんな症状がでるか。
どうやって診断するか

肝臓にも腎臓と同じ「のう胞」ができたり、脳の血管に動脈瘤というコブができたり大腸に憩室と

いう袋を形成したりします。「のう胞」は幼少期にもみられますが症状はないことが多く健診の超音波検査などで初めて指摘されることもあり「のう胞」の中に出血したり「のう胞」に感染を起こすと痛みが出ます。

血のつながった家族の中に同じ病気の方がいるかどうか、画像検査(CTやMR)で「のう胞」を確認して診断を行います。くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤の検査も行います。

治療法は?

今までは腎臓の働きが悪くなるのを防ぐために血圧を下げたり、減塩・蛋白制限といった食事療法を守ったりする方法しかありません

医療費助成について

「トルバプタン」を用いると薬価だけでも高額な医療費になります。平成27年1月から新しい医療費助成制度(難病の患者に対する医療等に関する法律)に基づく制度)が始まりました。患者さんの所得や病気の重症度によっても異なりますので詳しくは最寄りの保健所までお問い合わせください。

